

Counseling Room

家庭問題カウンセリングルーム

第121回

公益社団法人
家庭問題情報センター 笠松奈津子

「高齢のお母さんをめぐる、長男の心配」

親が高齢になると、介護やその費用の負担、
心暗鬼の心情を呼び起こすことさえあります。
将来の相続をめぐって、きょうだい間で疑
相談に訪れた和雄さんもそのひとりです。

和(和雄) 今年八十歳になる母が急に

カ(カウンセラー) それはご心配ですね。

和 警察など届出はなされたのでしょうか。

カ 妹さんが居場所を知っています。

和 妹のところが、もしかしたら妹が施設に入れたのかもしれない。

カ そうすると、ご心配というのは……。

和 母本人のこともそうですが、母が衰えたとき、誰が面倒をみるかとか、施設にお願いするのであれば費用をどうするか、もしものときにはどうするかなど、長男なものですから。

カ 妹さんから、そのような相談や、打診があったのでしょうか。

和 あれば、むしろいいのです。何もいつてこないどころか、母に会わせてほしい、母の様子はどうかなんだと妹に聞いても、母は大丈夫だからしばらくそつ

としておいてほしいと、会わせてもくれません。

このままだと、妹から介護の費用を請求されたり、いづれ相続、というときに、妹たちから「自分たちが面倒をみたのだから、家をよこせ」なんていわれるのではと心配になりました。

父が他界して、母は私たち夫婦と生活していました。母は、年齢の割には元気で自分のことは何でもできるし、近所の友だちと行き来し、つき合ひもありました。

ところが、一か月ほど前に、母は妹の家へ行つたままになつてしまいました。

妹から母に戻ってくるよう伝えてもらいましたが、私たちとはもう一緒に暮らせない、絶対に帰らないというのです。

お母さんはご自身で妹さんのお宅へ行かれたのです。

一応、そうなっていますが、こうなつてみると、妹がそのかしたのではな

いかと勘ぐつてしまいます。それに、私の留守中に、母の身の回りのものや大事なものを持ち出しているのです。

和 妹さんが持ち出したと？

カ はつきりとはわかりません。鍵を持っているのは母ですし、母が自分で取りに帰ろうと思えばできますからね。

和 妹に、母を帰すようにいつたのですが、私たちのところに母を戻すのは心配だと、私らが母に危害でも及ぼすか

のようないいぶりなのです。

それから、私が電話をしても出ないし、メールにも応答なしです。

カ これまでも妹さん宅へは泊まりに行かれるようなことはあったのでしょうか。

和 孫の祝いごとで訪問することはありましたが、泊りがけはありませんでした。妹の連れ合いに気を遣っていましたから。

カ 今まででないことだし、自分の悪口をいわれているようで、いい感じがしないのです。

なっている。

和 仲たがいでどころではないです。

母の友人から聞いた話では、私たち夫婦が母を追い出して、この家を独り占めしようとしていると、近所で噂になっっているそうです。

和力 そんなことが耳に入ったのですか。焦りましたね。話をしたいから、家に

来てくれないかと妹夫婦に連絡をしても「忙しくて行かれない」とか「今は話すことがない」と拒否するのです。妹たちが何を考えているか、とても心配です。

和力 このまま話し合いができないなら、こちらから押しつけて無理にでも話をしたほうがいいのか、弁護士などの専門家に入ってもらおうほうがいいのか……。

和力 そこまでお考えなのですね。両親は文房具屋をしていましたが、

スーパーも百円ショップもある時代です。学校の近くでも文房具なんか売れやしません。

私は会社員になって結婚後は社宅暮らしだったので、子どもたちが独立し、いつまでも社宅生活ってわけにもいかなかったもので、夫婦で実家に同居しました。

父母で細々と文房具屋を続け、父の死後もしばらくは店を開けていました。最終的には閉めました。不動産は父の名義のままで、固定資産税は私が払っています。

カ いずれ母が亡くなったら、手続をしなくてはならないでしょう。実は、そういう話を母にし始めていました。なるほど。お話し合いを始めようとなさっていたのですね。

和 家も古くなり、テレビで古い木造家

屋のリノベーション特集を見たのを機会に、漏電で火災を起こしてもいいからそろそろ立て替えか改築をしようと思っかけたのです。そうすると、資金や名義の話になります。

和力 現実的なお話ですね。母は、思い出のある家だし、今更お金をかけて改築や建て替えは嫌だった

ようです。それで、母のいないところで、私たち夫婦で話を進めて、一度業者にも来てもらったのですが、それが母に知れ、勝手に話を進めていると急に不機嫌になり、出て行ってしまったというわけです。

和力 大事な話が自分抜きで進められて、おもしろくなかったのでしょうか。本当は、母の足腰が弱ってきたので、

バリアフリーにするのが一番の目的だったのですけれど。そのことはお話しになったのでしょうか。

和力 話したら「人を年寄扱いする！」といいましてね。それで母抜きで話していました。

カ 息子さんには弱ってきたように感じられる面があっても、お元気なお母さんなのでですね。

和 口は達者です。さすがに忘れっぽくなり、物をよくなくすので心配ですね。同じことを何度も繰り返すようになってきました。今思えば、先回りして心配していました。

通帳がどこにあるのか、印鑑は、など、同じころ立て続けに問い詰めたようなこともありました。そんなことも、母を怒らせたのでしょうか。

半月後、再び和雄さんが訪れました。思いきってお母さんに手紙を書き、家の改築は急ぐ話ではないので、当面、急な階段に手すりを付けることだけを考えていると伝えたところ、お母さんからも返事が来て、「急に家を出て驚かせて悪かった。娘（和雄さんの妹）にも世話をかけたので、そろそろ家に帰る」と書いてあったそうです。

和

母の字や文章がうまいのには驚きました。短大の国文科に進学したかったのですが、幼いきょうだいがいるから早く嫁ぐようにいわれ、見合い相手が文房具屋だったので、書くことに関係あるから我慢したといっていました。愛着のある家に気持ちよく住めるようにしないとね。妹からも電話があり、私が何をカリカリしているのだと拍子抜けするようないびりでした。いやあ、私も焦っていたので、妹にも脅迫めいたメールや留守電を繰り返していました。

私の取りこし苦労でした。

家族を案じていながらも、心配や思い込みから、悪いほうへ悪いほうへと考えが行ってしまうことがあります。行動を起こす前に、身近な相談機関で、気持ちの吐き出しが必要なのかもしれません。

家庭問題
カウンセリング
ルーム

